

第五次蒲郡市総合計画(案)

パブリックコメント募集で提出された意見の概要及び意見に対する考え方
(令和3年4月8日から令和3年5月7日まで実施)

No.	提案者	意見の概要	意見に対する考え方
1	A	ICTやソサエティ5.0などの言葉が出てくるが、個人情報の保護と、ネットなど使えない人が不利益を受けることのない行政を明言してほしい。	個人情報の保護、セキュリティ確保に引き続き取り組み、また、性別や年齢、障がいの有無に関わらず、すべての人が活躍できる社会を作っていくとともに、行政だけではなく、企業、NPOなどあらゆる関係者が協働して、安心して、支え合える、誰一人取り残さない社会を推進いたします。
2	A	子育てしやすいまちとして、さまざまな施策に取り組んでいるが、子育てママから具体的に要望があることに、もっと機敏に予算をつけるようにしてほしい。	本市は平成29年度から、下のお子様の育児休業を理由とした2歳児以上の保育の継続を可能にいたしました。0・1歳児は対応できておらず、保育士の確保や入所ニーズを見定めながら、段階的解消に努めているところであります。今後におきましても、保育士の確保を進め、年度途中での入園申込数などを考慮しながら、子育て中の皆様が利用しやすい制度づくりをめざしてまいります。
3	A	国民健康保険の目標が、収納率であることにはびっくりした。施策も「運営」ばかりで、市民の立場の計画がない。払える国保にするために、どうするのか、示してほしい。	誰もが安心して医療の制度を受け、健康的な生活をおくることが重要です。このため事業運営に必要な財源である保険税を確保する必要があります。また市民の健康保持増進のため、健康寿命の延伸を目的とした予防事業を進めてまいります。
4	A	リサイクル率の目標が低いと感じる。高くする具体的な取り組みを示してほしい。	リサイクル率の目標値は、蒲郡市一般廃棄物ごみ処理基本計画(平成26年3月策定、令和2年3月改訂)において目標設定したのになります。目標設定にあたっては、環境保全活動団体や市民の代表者などで構成する蒲郡市ごみ減量推進対策協議会のご意見をいただきながら、目標年度の2028年度リサイクル率25%と定め、適正に目標設定がされているものと考えております。ごみ処理基本計画では、リサイクル率を高くし、目標を達成するための取り組みとして、ごみ減量化・資源化推進の取り組みを示していますが、その一つとしてプラスチック製容器包装や小型家電、廃食用油など分別品目を追加し、その拠点回収によって資源物の増加を図っています。また、市民の皆様には、雑がみなど資源可能物の分別徹底を啓発し、PTA等の資源回収団体が実施する集団回収が積極的に行われるよう奨励金を交付するなどの資源化推進に関する取り組みを示しています。なお、目標値や具体的な取り組みについては、今後のごみの排出量やリサイクル率の推移を見て必要に応じて、ごみ処理基本計画の内容を見直し、定めてまいります。
5	A	「駅を中心ににぎわいを創出する」などあるが、歩いて楽しいまちにする取り組みがなければ、車社会の蒲郡では箱もの頼みになるのではないか。巡回バスで蒲郡駅に、毎日、1時間に1本、来れるくらいでなければ、駅周辺の賑わいは生まれないのではないか。	にぎわい創出施策の参考意見として受け止めさせていただきます。現在、蒲郡駅を発着するバスにつきましては、週3日運行の西部地区支線バスが1時間に1本程度、毎日運行の名鉄バスが30分ないし1時間に1本程度ございます。今後も公共交通の維持・発展のため、地域の方々や事業者とともに、地域に密着した利便性の高い公共交通を目指し取り組んでまいります。
6	A	農業の担い手への集積中心でなく、家族経営を続けられる農業をどうつくるのか、示してほしい。また学校給食への活用、自校調理方式の導入、施設や職場での地産地消メニューを安定的に行うようにすべきではないか。	遊休農地等の抑制のために担い手へ農地集積を図り、農地の利用の促進を進めているところです。また、家族農業経営の継続対策として、家族経営協定を推進し、農業経営の一層の改善を図ってまいります。農業にふれる機会の提供や地産地消の取組など農業に関わる食育を推進していきます。
7	A	水産業において指標に金額が10年間、まったく同じ根拠はなにか。	水産資源の減少、水産物の消費減少、漁業者の減少している状況の中、水産振興を展開し、指標の現状維持を目標としています。
8	A	計画全体は、読みやすく作ってあると思う。	参考意見として受け止めさせていただきます。
9	A	総合計画審議会において子育てママなど女性、そして若い人が少なかったのではないかと。未来を検討するのだから、どのように努力したか。	総合計画審議会は蒲郡市総合計画審議会条例に基づき各団体から委員を推薦いただいております。総合計画策定過程において以下のとおり、幅広い年代の市民の方から意見をいただき、審議会委員の皆さんにはこれらの結果を踏まえ審議いただいております。 ①市民意識調査(18歳以上の市民2,000名対象) ②中学生・高校生アンケート(市内7中学校に通う中学2年生全員(704人、うち579人回収)、市内の県立高校に通う2年生を全員(610人、うち584人回収)を対象)を実施 ③団体アンケート(市内各種団体197団体、うち123団体から回答) ④団体ヒアリング(市内企業・団体9団体から現状や課題をヒアリング) ⑤市民ワークショップ(公募により延べ33名が蒲郡の将来像、施策等について意見交換) ⑥まちづくりフォーラム(会場及びオンラインにより約90名の参加)

No.	提案者	意見の概要	意見に対する考え方
10	B	分野別計画でめざす将来の姿と目標値について関連性がないものが多い気がする。関係性が薄ければ目標を達成しても将来像には近づかない。 また数値化することはわかりやすいが、これを達成できればできているという安易な考えにもなってしまう。指標の作り込みは、専門家による検討が必要ではないのか？	第五次総合計画では、目標管理型の計画として各分野(各施策)のめざす姿と目標値を定め、公表しながら適切に進行管理を行うこととしています。目標値の設定につきましては、総合計画審議会において学識経験者等含めた有識者の方に丁寧に見ていただきながら設定させていただいております。
11	B	将来まちの主役になってく若者の意見を把握してまちづくりの方向性を明らかにするとしているが、20代～40代の若者の意見はどのように把握したのか。	平成30年度及び令和2年度に蒲郡市在住の18歳以上の方2,000人を無作為で抽出させていただき、市民意識調査を実施し意見をお聞きし、年齢別についても意見を把握しています。
12	B	シビックプライドの説明がほしい。	用語解説を追加いたします。
13	B	まちづくり戦略の位置付けがよく分からない。	地域社会は、少子高齢化、外国人住民の増加、産業変革のためのICT(情報通信技術)など未来技術の導入、新型コロナウイルス感染症による影響など様々な動きがあり、その状況は刻々と変化し、社会課題についても複雑化また多様化してきております。基本計画(分野別計画)に示しています施策をそれぞれ進めるだけではなく、横断的に相互連携することによって戦略的に進めていかなければならない3つの大きなテーマに分け、合計10の施策について、まちづくり戦略にあげさせていただいております。
14	B	市民協働の関連する計画等に「指針がまごおり協働のまちづくりに向けて」を入れてほしい。	「指針 がまごおり協働のまちづくりに向けて」を関連する計画等に追加いたします。
15	B	報道機関への情報発信について、市政のことなのに、新聞などメディアからでしか情報を得ることができないものがある。プレスリリースを出すときは市民にもHPなどで公開してほしい。	主な市政情報については、市ホームページ掲載をさせていただいております。引き続き、市ホームページへの掲載漏れがないよう内部への周知を徹底させていただきます。
16	B	指標をつくる数値について、毎年状況を把握して進捗管理をするところがあるが市民意識調査は、どのようなタイミングで行い、どう進捗を管理するのか。	市民意識調査は、市民の生活実感などを把握するのに有効な手段と考えております。総合計画の進捗管理を進める上で原則2年に1度実施していく予定をしております。その結果及び動向を踏まえ、評価し、次の施策に反映させていただきたいと考えております。